

彩の歳時記

平成二十三年 三月

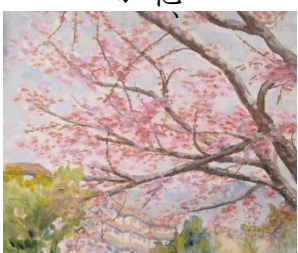
花の雲 鐘は上野か 浅草か

芭蕉【1644～1694】

(花曇りの空に鐘の音が聞こえてくる。あれは上野の寛永寺の鐘か、はたまた浅草浅草寺の鐘か)

ここで言う「浅草の鐘」は浅草寺境内の「時の鐘」、上野は精養軒横の小高い丘にある「時の鐘」。「時の鐘」は、はじめ江戸城内にありましたが寛永三年(1626)に日本橋石町(こくちょう)に移され、元禄以降、江戸拡大に伴い、上野山内・浅草寺の他、本所横川・芝切通し・市谷八幡・目白不動・目黒円通寺・四谷天竜寺などにも置かれました。現存は石町、浅草寺、上野、四谷天竜寺の四つ。

三月、光の春・花の雲に誘われて、鐘巡りなどもいいですね。



三月の異称

弥生

弥は、いよいよ・ますますの意。植物が、ますます生まれる月。花月・桜月・桃月。

襖月(みそぎづき)「紙雛に襦袢を背負ってもらい流し、襖をする」

三月の暦

三日 上巳(じょうし)の節句(桃の節句・ひな祭り) 五節句の一つ。元は三月上旬の巳の日で

旧暦では桃の花の咲く季節。この日、川で身を清め不浄を払う習慣が平安時代に伝来した。後、小さな人形を流す「流し雛」に。「源氏物語」の「須磨」の巻に光源氏が巳の日に人形を舟に乗せて流す場面がある。今は女の子の成長を願い人形飾る行事に。いきいきと ほそ目かやく 雛ひさかな 飯田蛇笱(1885～1962)



六日 啓蟄(けいちつ)「仲春の月、蟄虫(ちゅうちゅう)みな動き 戸(かど)を啓(ひら)き始めて出づ」二十四節気の一つ

十二日 奈良東大寺二月堂お水取り 若狭から運ばれた水を本尊に供える年中行事。夜、鐘の合図で籠松明(たいまつ)が本堂の回廊を駆け抜ける火の子を浴びると除災になると多くの観衆で賑う。若狭から運ばれた水を本尊に供えることに由来。



十四日 ホワイトデー 全国鉛菓子業協同組合が1978年にバレンタインのアンサーデーとして制定。砂糖の白が名前の由来。

十八日 彼岸入り 彼岸(ひがん)とは極楽浄土のことで私たちの世界のことは此岸(しがん)という。



二十日 上野動物園開演記念日 1832年(暦15)のこの日、上野に日本初の動物園が開園。無料公開日。今年はパンダの来日で春を前に賑いもひとしお。

二十一日 春分の日。二十四節気。春彼岸の中日。昼夜の長さがほぼ等しく。

二十四日 彼岸明け

二十四日 檸檬忌

代表作『檸檬』から、こう呼ばれる。近代小説家・



詩人、梶井基次郎【1901～1932】の忌日。志賀直哉に影響を受け簡潔な描写、诗情豊かな小品を残した。代表作『檸檬』は「肺病で熱を帯びた手に伝わる檸檬の冷たさにいやされる描写」が秀逸。

『その檸檬の色彩はガチャガチャした色の階調をひっそりと紡錘形の身体の中に吸収してしまっ、カーンと冴えかえっていた。私は埃っぽい丸善の中の空気がその檸檬の周囲だけ変に緊張しているような気がした。』

三月の歌

さくら

詞 御徒町風・森山直太郎 曲 森山直太郎【1976～】

2003年発表。世界ウルルン滞在記」のエンディングテーマ曲。
2006年120万枚売上ミリオンセラーに。
オリコン桜ソングランキング一位。

ぼくらはきつと待ってる
君とまた会える日々を
桜並木のみらの上で
手を振り叫ぶよ
どんなに苦しい時も
君は笑っているから
くじけそうになりかけても
頑張れる気がしたよ
かすみゆく景色の中に
あの日の歌が聞こえる
さくらさくら今咲きほころ
刹那に散るゆくさだめと知って
さらば友よ 株立ちのとき
変わらないその想いを今